

2000年3月31日有珠山噴火

＜川邊 禎久・風早 康平・宝田 晋治・総合観測班地質グループ＞

有珠山では3月27日夜から火山性地震が増えはじめた。29日には気象庁から噴火警報にあたる緊急火山情報第1号が発表され、過去の噴火事例などから事前に作られていたハザードマップに基づき、有珠山周辺住民への避難



1. 壮瞥温泉の湖岸道路上に出現した断層。3月29日夜には地震変動による断層が有珠山北東湖岸の壮瞥温泉地区、北西の洞爺湖温泉町地区に生じていることが発見された。壮瞥温泉に出現した断層は、走向が有珠山山頂を向く右横ずれ雁行割れ目で、有珠山北側が洞爺湖側へ移動するような変動を示した。3月31日9時43分撮影。



2. 噴火開始約3分後の噴煙。13時7分過ぎに有珠山西麓、西山西の国道230号線付近で噴火が始まった。31日13時10分撮影。



3. 噴煙は南西の風に流されて洞爺湖温泉町や洞爺湖上に降灰をもたらしながら、北東方向に流れていった。降灰は約60km離れた札幌市まで達し、火山灰の量は75,000トンと見積もられている(総合観測班地質グループの予知連資料による)。31日13時23分撮影。

勧告(後に避難指示)が各自自治体から出された。そのような状況の中、31日13時07分に有珠山西麓、西山西の国道230号線付近で23年ぶりの噴火が始まった。

地質調査所では、29日から研究者3名を現地に派遣し、他機関と共同して有珠山の調査にあたった。31日正午から有珠山の北約8kmの展望台から遠望観測を行っていたときに13時7分過ぎから噴火が始まり、写真、ビデオに記録することができた。

今回はその時に撮影した映像を速報として報告する。なお写真中の時刻は、約1分遅れていることを当日夕方に確認しており、そのため解説中の時刻は写真記録時刻より1分遅らせて記述している。



4. カリフラワー状の黒色噴煙。13時20分過ぎから何回か数分程度の休息をはさみながら、黒色の噴煙がやや勢いよくほぼ連続的に上昇するようになり、噴煙高度も高くなった。31日13時53分撮影。



5. 噴煙高度は最高3200mまで達した(気象庁による)。黒色噴煙の連続的な噴出は14時52分ごろまで続いた。31日14時47分撮影。



6. 新火口でのコックステイル(Cock's Tail)状噴煙。黒色噴煙の噴出停止後、間欠的に典型的なマグマ水蒸気爆発を起こしていた。31日16時50分撮影。